

# 中国における日本の大学の広報活動の効果的な手法の考察

北京研究連絡センター

武内 亜紀子

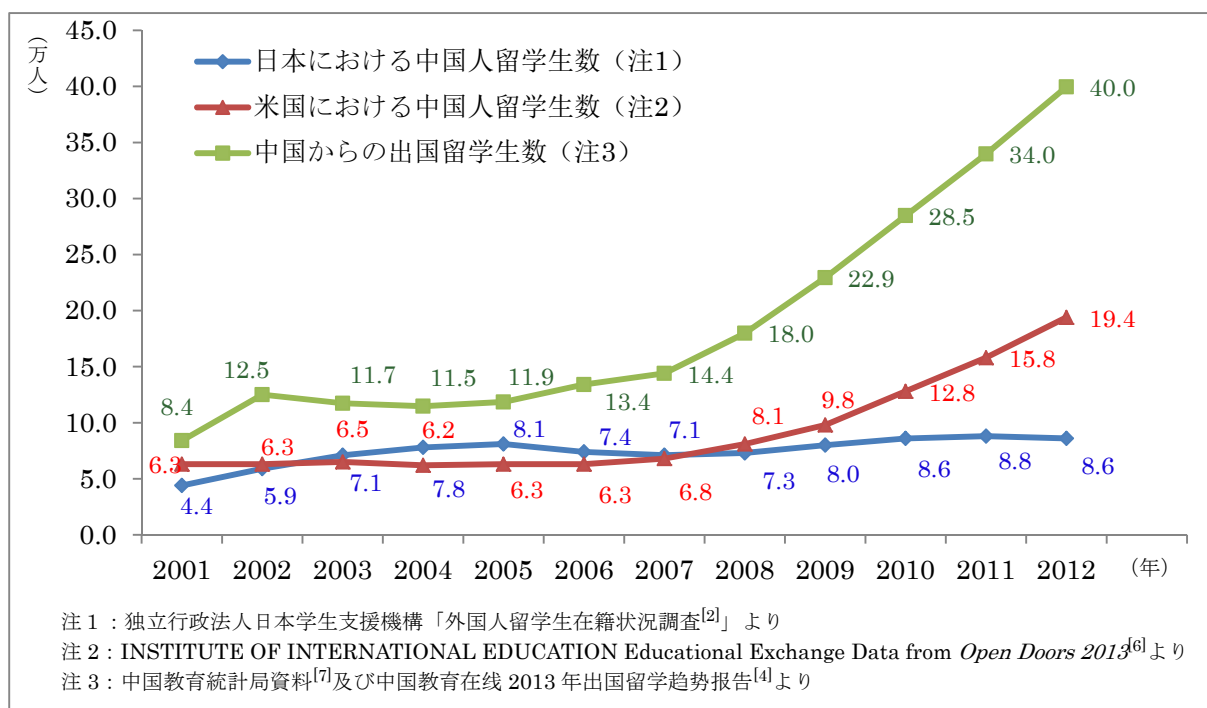
## 1. はじめに

平成 20 年に文部科学省をはじめ関係 6 省が策定した「留学生 30 万人計画」<sup>[1]</sup>では、グローバル戦略展開の一環として 2020 年をめどに留学生受け入れ数 30 万人を目標に掲げている。日本学生支援機構 (JASSO) による外国人留学生在籍状況調査結果<sup>[2]</sup>によると、2012 年 5 月 1 日現在、外国人留学生の受け入れ数は 137,756 人、そのうち中国からの留学生は 86,324 人 (62.7%) と、全留学生数に占める割合は最も多い。

一方、中国からの出国留学生の数は近年急速に増加している<sup>[3]</sup>。中国教育在线 2013 年出国留学趋势报告<sup>[4]</sup>によると、2006 年の 13.4 万人に対し 2012 年は 40.0 万人と約 3 倍となっている。背景には、2007 年に始まった「五千人計画」と呼ばれる留学生派遣プログラム<sup>1</sup>や、2003 年に作られた「優秀私費留学生奨学金」など、様々な留学支援政策を打ち出していることがある<sup>[5]</sup>。しかし、日本に留学する中国人留学生数は 2011 年の 87,533 人から 2012 年には 86,324 人と減少に転じている (上記 JASSO による調査結果から)。これに対し、アメリカの大学に在籍している中国籍の学生数は、2007 年の 6.8 万人から 2012 年は 19.4 万人と 5 年間で 3 倍以上に増加している。留学を希望する中国人学生が飛躍的に増加しているものの、その多くがアメリカやイギリスへ目を向けているという状況だ<sup>2</sup>。

【中国人出国留学生数の推移と、日本・米国における中国人留学生数の比較】

図 1



<sup>1</sup> 「国家建设高水平大学公派研究生项目 (国家高水準大学建設のための公費派遣大学院生プログラム)」。中国の博士課程大学院生を海外の一流大学へ毎年 5,000 人派遣するプロジェクトで、2007 年から 20011 年の第一期終了後、2012 年以降も継続されている。

<sup>2</sup> 中国教育在线 2013 年出国留学趋势报告によると、2012 年から 2013 年にかけての出国私費留学生数の割合は国別ではアメリカ (30%) が最も多く、イギリス (21%)、オーストラリア (13%)、カナダ (10%) と続き、日本は 5% にとどまっている。

中国人留学生を含め、世界各国からより優秀な留学生を確保するため、文部科学省の「戦略的な留学生交流の推進に関する検討会」が平成 25 年 12 月に発表した「世界の成長を取り込むための外国人留学生の受入戦略（報告書）」<sup>[8]</sup>では、重点分野・重点地域を設定し、外国人留学生受入に係る戦略を策定することの必要性が述べられている。ここでは、奨学金の充実や外国語での履修が可能な環境の整備促進など、具体的方策が示されている。

このような環境が整備されていくことは、留学生数増加のために重要だが、一方、日本に留学した経験のある中国人研究者からは、次のような声を耳にすることが多い<sup>3</sup>。

「日本の大学の情報があまり得られない」

「日本の魅力は一度訪問することでよく分かるが、中国にいる学生にはその良さが伝わらない」

「中国の大学で日本の大学を PR する機会が少ない。また、機会を得たいと思っても実現が難しいことがある」

これらの言葉は、インターネットが普及し、誰でも簡単に世界中の情報を得られるような時代となった現在も、中国人学生が日本の大学の正確な情報を得ることは難しい状況にあることを表している。中国国内でのインターネットのアクセス制限や、大学をはじめとする教育機関の HP で情報が公開されていない場合が多いこと、中国の留学仲介業者による間違っただけの情報提示される、あるいは政治的な影響による日中間交流の滞りなど、様々な要因が考えられる。

JSPS 北京研究連絡センターに赴任以来、こういった状況を目の当たりにし、日本への留学促進において、改めて地道な広報活動の重要性を実感した。日本にとって中国は、非常に身近でありながら、地に足を付けてしっかりと向き合わなければ知りえないことも多い国である。その中国で、日本の大学のよさを PR し、13 億人の中から優秀な留学生を獲得していくためには、どのような広報活動が有効か、背景にある課題やリスクに着目しながら考察したい。

本報告書では、中国における日本の大学の広報活動を整理し、留学説明会の運営に携わった中から見えてきた課題の中で、「中国人学生が求める情報」「中国の大学との連携」に着目した。この 2 つの課題について、それぞれアンケート調査結果の分析と留学説明会の事例の紹介により考察する。

---

<sup>3</sup> 在中国日本国大使館が定期的で開催している「元日本留学経験者への日本の大学院教育等に関する説明会」や、中国の大学と日本の大学との意見交換会の場などでの発言による。

## 2. 中国における大学広報活動の状況と課題

まずは、中国国内における日本の大学の広報活動の状況と課題について整理してみる。

### 2-1. JSPS 北京研究連絡センターの役割

日本への留学を促進する機関としては、日本学生支援機構（以下、JASSO）があるが、中国には JASSO の事務所が設置されていないことから、その役割を JSPS 北京研究連絡センター（以下、JSPS 北京センター）と在中国日本国大使館広報・文化センター（以下、日本大使館）が担っているという状況にある。JSPS 北京センターはその役割の一つに「日本の大学等の海外活動展開の協力・支援」を掲げており、日中高等教育交流連絡会「希平会<sup>4</sup>」の事務局を担当し、希平会事務局として中国各地で毎年数回開催する「大学合同日本留学説明会」の連絡調整及び当日の運営を担当している。

また、日本の大学が中国国内で開催する留学説明会、シンポジウム、セミナー等のイベントに対し、共催または後援、経費の支援などを行っている。

### 2-2. 中国国内での合同留学説明会開催状況

中国国内で複数の大学が合同で開催する留学説明会は、上記希平会主催「大学合同日本留学説明会」の他に、中国教育国際交流協会が主催する中国国際教育展（「日本留学フェア（主催：JASSO）」として開催）、在中国日本国大使館主催の「日本高等教育説明会」などが挙げられる。JSPS 北京センターが運営にかかわった説明会について、過去 3 年間の実施状況を表にまとめた。

---

<sup>4</sup> 希平会（日中高等教育交流連絡会）とは、中国に事務所、拠点、同窓会組織等を持つ日本の大学、研究所、政府系機関等を中心に組織された団体で、2 か月に一度ほど北京市内の会場で定例会を開催し、日中間の教育・研究に関する情報交換や講師を招いての講演等を行っている<sup>[9]</sup>。

平成 23 年度

表 1

	開催日	名称	都市名	会場名	参加者数	参加大学数	備考
1	6/19	中国地区及び広島県内大学説明会	北京	首都師範大学	100	5	広島大学主催 JSPS 共催
2	7/4	大学合同日本留学説明会	貴州省 貴陽	貴州大学	250	9(8)	希平会主催 窓口 :久留米大学
3	10/15-16	中国国際教育展（留学フェア）@北京	北京	中国国際貿易 中心展厅	2,417	43	日本側主催： JASSO
4	10/22-23	中国国際教育展（留学フェア）@上海	上海	上海東亜展覽館	1,319	41	日本側主催： JASSO
5	10/24	大学合同日本留学説明会	上海	華東理工大学	100	10(4)	希平会主催 窓口 :創価大学
6	10/25	大学合同日本留学説明会	江蘇省 南京	南京大学	180	10(7)	希平会主催 窓口 :名古屋大学
7	11/1	大学合同日本留学説明会	遼寧省 瀋陽	東北大学	300	14(3)	希平会主催 窓口 :名古屋大学
8	11/3	大学合同日本留学説明会	吉林省 長春	吉林大学	130	15(3)	希平会主催 窓口 :筑波大学
9	11/4	大学合同日本留学説明会	吉林省 長春	東北師範大学 赴日予備学校	250	15(4)	希平会主催
10	3/10	大学合同日本留学説明会	遼寧省 大連	大連理工大学	370	15(3)	希平会主催 窓口 :在大連出張 駐在官事務所
11	3/11	大学合同日本留学説明会	遼寧省 大連	大連外国語学院	1,100	15(2)	希平会主催 窓口 :在大連出張 駐在官事務所

注) 参加大学数欄の ( ) は資料参加大学数で、外数。

平成 24 年度

表 2

	開催日	名称	都市名	会場名	参加者数	参加大学数	備考
1	6/2	中国地区 6 大学留学フェア	北京	首都師範大学	150	6	広島大学主催、 JSPS 共催
2	6/14	大学合同日本留学説明会	江西省 南昌市	南昌大学	300	10(4)	希平会主催 窓口 :久留米大学
3	6/15	大学合同日本留学説明会	広東省 広州市	中山大学	150	11(4)	希平会主催 窓口 :広島大学
4	6/18	大学合同日本留学説明会	北京	中国人民大学	150	13(3)	希平会主催 窓口 :一橋大学
5	8/29	日本留学フェア・セミナー	北京	中日青年交流 センター	1,000	104	日本側主催： JASSO
6	11/14	大学合同日本留学説明会	吉林省 長春市	東北師範大学	200	18	希平会主催
7	3/9	国際教育巡回展日中交流会	北京	21 世紀飯店	200	38	主催 : JST
8	3/16	大学合同日本留学説明会	大連	フラマホテル 大連	420	16(3)	希平会主催 窓口 :在大連出張 駐在官事務所

注) 参加大学数欄の ( ) は資料参加大学数で、外数。

	開催日	名称	都市名	会場名	参加者数	参加大学数	備考
1	6/2	大学合同日本留学説明会	山東省 青島	青島大学	180	14 (5)	希平会主催 窓口：青島領事館
2	6/15	中国地区 6 大学留学フェア	北京	北京師範大学	68	6	広島大学主催 JSPS 共催
3	11/2-3	中国国際教育展（留学フェア）@北京	北京	国家会議中心	1,822	37	日本側主催： JASSO
4	11/8	大学合同日本留学説明会	上海	復旦大学	100	17 (3)	希平会主催 窓口：神戸大学
5	11/9-10	中国国際教育展（留学フェア）@上海	上海	上海東亜展覽館	1,156	34	日本側主催： JASSO
6	11-16	大学合同日本留学説明会	吉林省 長春	東北師範大学	160	15 (5)	希平会主催
7	11/16	大学合同日本留学説明会	吉林省 長春	東北師範大学 赴日予備学校	170	17 (5)	希平会主催
8	11/22	大学合同日本留学説明会	甘肅省 蘭州	蘭州大学	180	10 (3)	希平会主催
9	11/30	大学合同日本留学説明会	湖南省 長沙	湖南大学	80	10(1)	希平会主催 窓口：北海道大学
10	12/1	大学合同日本留学説明会	四川省 成都	西南交通大学	150	11 (1)	希平会主催 窓口：久留米大学
11	12/19	日本高等教育説明会	北京	北京理工大学	70	9	大使館主催
12	12/23	日本高等教育説明会	北京	北京大学	30	2	大使館主催

注) 参加大学数欄の ( ) は資料参加大学数で、外数。

2012 年度は、日中関係の政治的な冷え込みの影響が大きく、秋以降に開催予定だった留学説明会が軒並み中止となり（9 月以降 3 件の説明会が中止となった）、毎年「日本留学フェア（主催：JASSO）」として参加していた中国国際教育展への出展も中止となった。しかし、2013 年度後半は 2011 年度と同程度の説明会を開催することができた。

希平会主催の「大学合同日本留学説明会」は毎年 8 回程度開催されている。参加学生数も毎回 100 名前後、多いときには 300 名以上の学生が参加した。説明会では、大使館または領事館から留学アドバイザー<sup>5</sup>を派遣していただき、日本への留学について、奨学金制度や試験の概要、日本での生活などを説明するとともに、大学個別のブースを設置し、各大学からより具体的な説明を行っている。

2013 年度からは、新たな取り組みとして、主に大学院生を対象にした「日本高等教育説明会」を日本大使館の主催により実施している。これは、日本大使館と JSPS 北京センター、JST 北京事務所が連携し、大学院生やポスドクの学生に対し国費奨学金、JSPS フェローシップ事業などを体系的に紹介すると同時に、日本の大学のブースを設置し、個別説明を行ったものである。211 プロジェクト、985 プロジェクト<sup>6</sup>などに指定された有力大学を中心に、主に北京市内で開催した。

<sup>5</sup> 2013 年の派遣実績は、在中国日本国大使館（北京）が 13 回（留学フェア・合同説明会 8 回）、在上海日本国総領事館が 12 回（留学フェア・合同説明会 2 回）となっている。

<sup>6</sup> 「211 プロジェクト」「985 プロジェクト」は、中国において世界一流水準の高等教育機関を整備することを目標に掲げたプロジェクトのこと。「211 プロジェクト」は 21 世紀へ向け中国全土に 100 余りの重点大学を構築することを目標とし、2012 年時点では 112 の大学が指定を受けている。その中の一部の大学を更に重点的に支援しているのが「985 プロジェクト」で、1998 年 5 月になされた江沢民主席（当時）の演説を基にしていることに由来する名称。2012 年時点で 39 校が指定を受けている<sup>[10]</sup>。

参加者数は少数ながらも、将来海外の大学への進学を考えている学生に対し日本の教育・研究力を PR する場となった。また、広島大学が主催する留学フェアは、中国地区の大学が共同で実施しているもので、広島大学北京研究センターが事務所を設置している北京師範大学と連携し、毎年実施している。

ここで挙げた以外にも、各大学が個別に行っている説明会は相当数に上る。多くの大学が、既存の協定校での説明会開催にとどまらず、各地の中学校（日本での高等学校にあたる）において説明会を開催し、新たな受験生・留学生の獲得のための広報活動を積極的に行っている。

### 2-3. 合同留学説明会等のイベント開催における課題等

説明会を順調に開催している一方、開催にあたってはいくつかの課題等がある。国際協力員として JSPS 北京センターに着任以来、一年間で携わった留学説明会から見てきた課題を以下に述べたい。

#### ①日中間の政治的情勢の影響を受けやすい

2012 年後半から続く日中間の政治的冷え込みの影響から、2012 年 9 月から 2013 年 5 月にかけて、大規模な留学説明会の開催が非常に難しくなった。中国側の大学において、国際合作処などの担当教員が開催に尽力しても、大学の上層部から許可が下りず延期・中止となるケースが相次いだ。特に地方では、北京や上海などの都市部の動向を見て状況を判断するという傾向があるため、影響の度合いはより顕著である。

#### ②中国人学生が求める情報の把握

日本の大学が提供する情報と、中国人学生が望む情報とのマッチングがとれているかについては、あまり検証が行われていない。

#### ③中国側大学の積極的な取り組み

中国の大学において、外国の機関がイベントを開催する際には、例えば教室の借り上げ一つとっても中国側の協力が不可欠である。教室を管理する担当部署に直接日本側から働きかけたとしても、中国側の担当部署（多くは国際合作処）の協力が得られなければ、予約すら難しいという状況にある。過去には、開催日直前まで担当教員が不在のため、前日になっても教室の使用許可が下りないといったトラブルもあった。また、大学内での広報が十分に行われず、参加者が伸び悩んだケースも少なくない。

上記のうち、①については国家間の問題であり、日中に限らず国際交流を進める上でのリスクであるため、現場レベルでは関与することが難しいため、動向を見て対応するよう努めることが必要である。②③については、一年間の研修期間に携わった留学説明会の業務において、アンケート調査の実施等により考察を行うことができた。次章からはその考察について述べたい。

### 3. 中国人学生が求める情報—アンケート調査から—

留学説明会に参加する中国人学生の生の声を聞き、留学先を検討するうえでどのような情報を必要としているかを探るため、中国国内で開催した大学合同留学説明会において、参加した中国人学生に対するアンケート調査を行った。アンケート用紙は JSPS 北京センターが作成し、今年度初めて行ったものである。実施方法、回収結果は次のとおりである。

#### 【アンケート実施方法】

- ・アンケート用紙は A4・片面 1 枚、中国語で作成。無記名。
- ・参加者への配布資料と一緒に説明会開始前に机上に配布。
- ・全体説明終了時に回収を呼びかけ、個別説明時に回収。

#### 【回収結果】

表 4

開催大学名	開催日	参加者数 (概数)	回収数	回収率	学部生からの 回収数(割合)
①青島大学(山東省)	2013/6/2	180	44	24.4%	42(95.4%)
②復旦大学(上海)	2013/11/8	100	12	12.0%	9(75.0%)
③東北師範大学(吉林省)	2013/11/16	160	28	17.5%	10(35.7%)
④赴日本国留学生預備学校(吉林省)	2013/11/16	150	40	26.7%	20(50.0%)
⑤蘭州大学(甘肅省)	2013/11/22	180	82	45.6%	42(51.2%)
⑥湖南大学(湖南省)	2013/11/30	80	32	40.0%	17(53.1%)
⑦西南交通大学(四川省)	2013/12/1	150	19	12.7%	14(73.7%)

アンケートの中で、学生がどのような情報を希望しているかを調査するため、複数回答による質問を設けた。結果は以下のようになった(質問番号は実際と同じ)。

#### 6) -1 今日の説明会ではどのような情報を得たいと思って参加しましたか？(複数回答可)

表 5

	1. 大学の専門	2. 入試について	3. 学費、奨学金、生活費など	4. 宿舎	5. 先輩の経験談	6. 大学所在地の情報	7. 中国からの留学生の情報	8. その他
①青島大学	30	25	38	19	4	15	15	1
②復旦大学	10	7	11	2	2	3	5	0
③東北師範大学	23	17	22	6	3	7	11	1
④赴日予備学校	25	29	23	13	6	11	10	1
⑤蘭州大学	60	43	65	14	14	19	34	4
⑥西南交通大学	13	11	14	0	3	6	4	2
⑦湖南大学	20	16	28	8	11	10	13	4



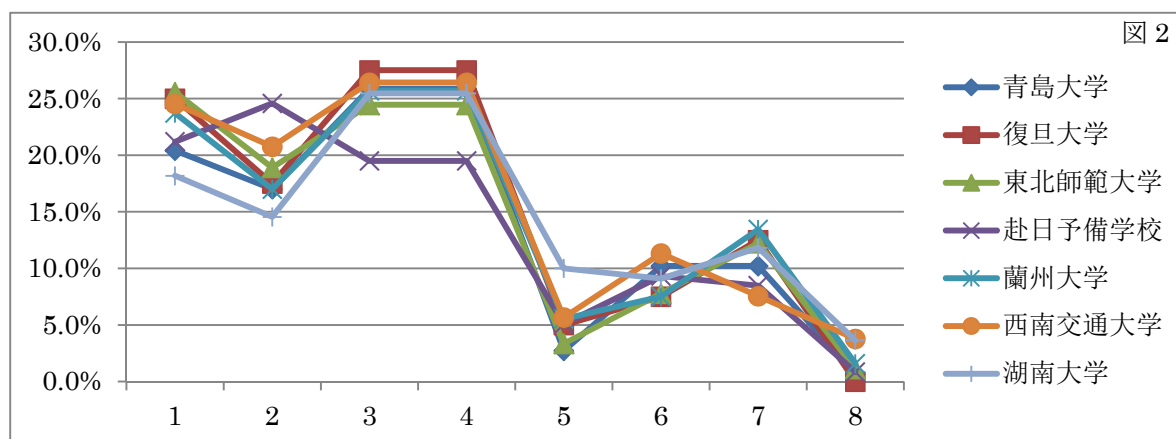
6) -2 今後の説明会ではどのような情報を希望しますか？（複数回答可）

表 6

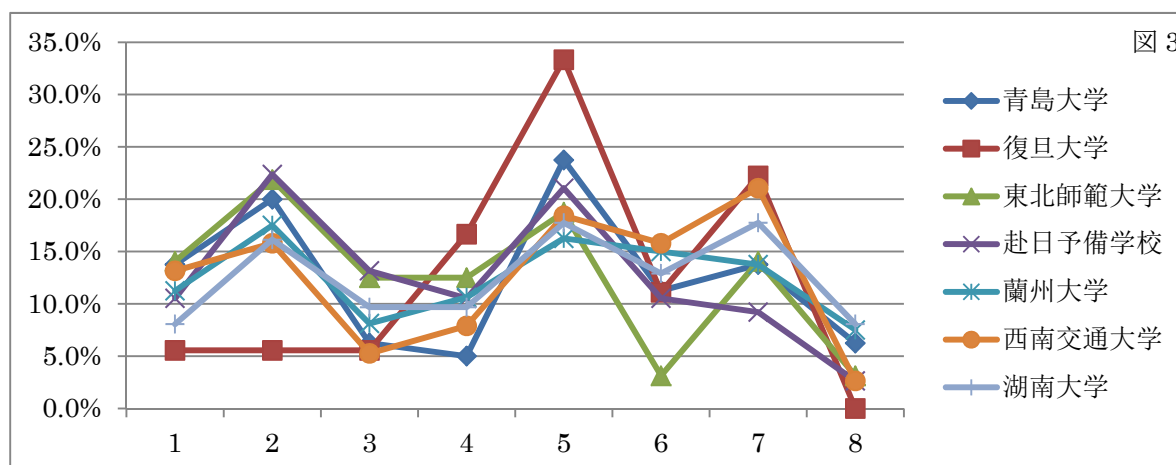
	1. 大学の専門	2. 入試について	3. 学費、奨学金、生活費など	4. 宿舍	5. 先輩の経験談	6. 大学所在地の情報	7. 中国からの留学生の情報	8. その他
①青島大学	11	16	5	4	19	9	11	5
②復旦大学	1	1	1	3	6	2	4	0
③東北師範大学	9	14	8	8	12	2	9	2
④赴日予備学校	8	17	10	8	16	8	7	2
⑤蘭州大学	18	28	13	17	26	24	22	12
⑥西南交通大学	5	6	2	3	7	6	8	1
⑦湖南大学	5	10	6	6	11	8	11	5

この結果を、回答総数に対する割合を説明会ごとにグラフ化したのが下記である。

6) -1 今日の説明会ではどのような情報を得たいと思って参加しましたか？（複数回答可）



6) -2 今後の説明会ではどのような情報を希望しますか？（複数回答可）



グラフを見ると、6)-1、6)-2ともに、全ての大学において回答の傾向が似ていることが分かる。アンケートを実施した7大学の所在地域は分散しており、この傾向は地域的な特徴ではなく、日本留学を希望する中国人学生全体の傾向と考えることができる。

6)-1については、学生が説明会に参加するにあたり、どのような情報が得たいと考えていたのかが読み取れる。多いのは、「1. 大学の専門」「2. 入試について」「3. 学費、奨学金、生活費など」「4. 宿舎」で、留学先を検討するにあたり一般的に必要な情報が続く。これらは、どの大学でも準備している情報であり、学生にとってニーズが満たされていると考えられる。

一方、6)-2の質問「今後の説明会ではどのような情報を希望しますか？」は、「今回はあまり得られなかった情報」とも読み替えることができる。ここでは、「5. 先輩の体験談」「7. 中国からの留学生の情報」が6)-1での回答数に比べて大幅に増加している。留学先を具体的に考える際に、大学の基本的な情報に加え、中国人の学生が留学先でどのように過ごしているかなどの「口コミ」の情報も必要としていることが読み取れる。

今回回収したアンケートの回答者は、表1で示したように半数以上が学部生であることから、大学院以上の学生に対しても同様の傾向があるとは一概に言えないが、留学を希望する中国人学生がどのような情報を望んでいるか、以下のようにまとめることができる。

- 1) 大学の専門分野、入試制度、学費・奨学金・生活費など費用面の情報、宿舎の情報  
・・・合同説明会で得られやすい。
- 2) 過去の中国人留学生の体験談、中国人留学生の在籍状況  
・・・合同説明会ではあまり得られない。

今後は、1)に加え2)についても、例えば中国人留学生の体験談をまとめた資料を作成したり、現地にいる過去の留学生に参加してもらい体験談を話してもらうなど、参加者が必要としている情報も提示していくことで、より満足度の高い合同説明会になっていくものと考えられる。

このうち、過去の留学生が合同説明会に参加するための具体的な方法としては、留学生同窓会ネットワークの構築や名簿を充実させるなどして、留学生の帰国後の動向を把握したり、帰国した留学生が母国において日本の大学をPRしてもらうよう働きかけるなど、在学中からそのような活動への協力を呼びかけることが考えられる。

## 4. 中国の大学との連携—蘭州大学での合同説明会を例に—

次に、留学説明会等のイベント開催における中国の大学との連携の重要性とその構築について、希平会主催大学合同説明会の開催を例に述べたい。

### 4-1. 大学合同説明会における窓口機関の役割

希平会主催の大学説明会を開催する場合、中国側大学との連絡については、在中国日本国大使館及び各地の領事館が窓口となる場合と、日本の大学がその協定校と連携して窓口となる場合がある。

窓口となる大学（以下、窓口大学とする）の役割は、中国側大学との連絡調整、日程及び会場の設定、学生への広報の依頼、備品の貸し出しの依頼、日本からの資料送付先の調整などがある。一方、希平会事務局を務める JSPS 北京センターは、日本側大学への参加の照会、連絡事項の周知などを行う。

窓口大学にとっては、事務的な役割がある一方、多くは協定関係にある中国側大学との連携強化につながったり、日本から複数の大学が同時に参加することで、単独で説明会を開催するよりも集客が見込めるといったメリットもある。

2012 年後半以降、日中関係の政治的冷え込みの影響により、中国国内で開催予定だった大学説明会を含めた日中関係のイベントの延期・中止が相次いだ<sup>7</sup>。このため、大学説明会の開催にあたっては、特に中国側の大学が主体的に取り組むことが非常に重要となった。第 2 章でも述べたように、中国の大学では、日本の大学に比べて事務職員の立場が強い。大学の事務組織の協力を得られるかどうかという点が、イベント開催においては重要となる。

2013 年に開催した説明会のうち、復旦大学では神戸大学が、湖南大学では北海道大学が、西南交通大学では久留米大学がそれぞれ窓口を担当し、開催までの調整を行った。いずれの大学も中国に事務所を設置しており、本部職員及び海外事務所職員が調整業務を担当した。

## 4-2. 蘭州大学での合同説明会開催

2013 年 11 月に、私の派遣元である秋田大学と連携協定を結んでいる蘭州大学(甘肅省蘭州市)においてはじめて合同説明会を開催した。窓口は JSPS 北京センターが担当したが、日中大学の連携が開催の決定に大きく影響した事例でもある。開催に至った経緯を以下に述べたい。

蘭州大学は 1909 年に創建され、中国西北地域の高等教育の先駆けとして、前述の「211 プロジェクト」「985 プロジェクト」の指定を受けている。6 校区に 35 の学院・研究院と 3 つの附属病院を有し、約 2 万人の本科生（学部生）、約 1 万 2 千人の修士・博士学生が在籍し、留学生は 500 人に上る、中国の有力大学の一つである<sup>[11]</sup>。

私は 2007 年 9 月から 12 月までの 4 か月間、甘肅省が実施する「甘肅省国際交流研修<sup>8</sup>」に参加した。滞在中は蘭州大学の寮で過ごし、蘭州大学の教員による中国語・中国文化の授業を受けた。これ以降、秋田大学からは毎年のように事務職員をこの研修に派遣してきた。一方、蘭州大学からも 2006 年以来 3 名の事務職員をそれぞれ 3 か月間受け入れてきた。このような相互交流が続いたのち、平成 25 年度からは秋田大学と蘭州大学とで新たに「職員相互派遣研修」を開始した。これを受け、2013 年 9 月から 11 月までの 3 か月間、秋田大学国際課の宮崎舞さんが蘭州大学に派遣され、国際合作与交流処に所属し業務を行った。

このように、事務レベルでの交流が活発である蘭州大学には、2007 年に滞在した当時お会いした教員が複数おり、その中で王育華先生が、2012 年末から国際合作与交流処の処長に就任されて

<sup>7</sup> 希平会主催の合同説明会が 2 件、JSPS 事業説明会が 2 件、JSPS 北京センター主催シンポジウム 1 件の開催が中止となった他、毎年中国国際教育展に出展していた JASSO 主催の留学フェアも中止となった。

<sup>8</sup> 甘肅省外事弁公室が 2006 年に開始した研修プログラムで、甘肅省及び省内各都市と友好関係にある世界中の都市から関係者（自治体職員、大学職員など多岐にわたる）を招へいし、甘肅省への理解を深め、今後の相互交流の発展に寄与する人的ネットワークを構築することを目的に、甘肅省内の視察や蘭州大学における中国語・中国文化の学習などを行っている。

いた。王処長へ希平会が主催する合同説明会の開催について打診したところ、ぜひ開催したいという回答をいただき、さらに秋田大学の宮崎さんが滞在中に開催できるよう、日程を調整していただいた。その後、10月にJSPS北京センターの和田センター長、加藤副センター長、江岸事務補佐員とともに蘭州大学国際交流与合作処を訪問し、改めて合同説明会の開催について打ち合わせを行い、開催当日には教員らを対象にしたJSPS事業説明会も併せて開催することが決まった。

合同説明会の窓口はJSPS北京センターが担当し、蘭州大学国際合作与交流処と連携して準備を進め、蘭州大学だけでなく蘭州市内の他大学の国際処へも参加を呼び掛けていただき、多くの学生の参加を得ることができた。

### 4-3. 大学間の連携の重要性

蘭州大学での合同説明会開催にあたり、JSPS北京センターでは、開催の打診から日程調整までを私が、具体的な連絡調整は現地職員の江岸事務補佐員が、日本側参加大学への連絡は希平会事務局長の加藤副センター長がそれぞれ担当し、日本側の窓口大学が担当する業務の一部を実際に行った。蘭州大学の担当者は、秋田大学の宮崎さんから日本語資料作成などで協力を得ながら、会場の手配や学生への広報、資料の準備などを行った。また、蘭州大学は合同説明会に参加した日本の大学担当者とのネットワークづくりにも積極的であった。蘭州大学にとっても、今回の合同説明会開催が、学生への情報提供にとどまらず日本の大学との新たなネットワーク構築といった点でも大きな効果があったと言える。

この合同説明会開催が実現した要因としては、次の点が挙げられる。

- ・秋田大学と蘭州大学の事務レベルでの活発な交流が継続されていたこと
- ・蘭州大学国際合作与交流処からの協力を得られたこと
- ・秋田大学の職員が蘭州大学で研修中であり、協力が得られたこと
- ・蘭州大学にとっても、合同説明会により日本の大学との新たなネットワーク構築が期待できるというメリットがあったこと

中国に限らず、海外において日本の大学が広報活動を展開する場合、足掛かりとなるのは協定を締結している大学である。交流を継続していくことで、担当者とのパイプができ、合同説明会のようなイベントを開催する際にも担当者からの協力を得られやすくなる。第二章で述べた「③中国側大学の積極的な取り組み」についても、既に日中の連携が図られ、中国側で窓口となる部署から協力が得られれば、大規模なイベント開催も可能となる<sup>9</sup>。

このような連携関係の構築は、一朝一夕には難しいものだ。秋田大学と蘭州大学の場合も、2006年以来相互に職員の派遣を行い、継続的に交流を重ねてきた。積み重ねた交流があったため、蘭州大学には秋田大学をよく知っている職員が何人もおり、今回の合同説明会開催にあたっても多大な協力を得ることができた。事務職員の派遣という小規模な交流であっても、継続し、互いをよく知る人材を増やしていくことにより、今回の合同説明会開催のように、将来成果として現れるという成功事例になった。

---

<sup>9</sup> 例えば北海道大学では、毎年中国の協定校と共同で、教職員・学生の相互交流を図ることを目的とした「北海道大学交流デー」を毎年開催している。このうち、2013年10月22日に蘭州大学で開催した交流デーには、両大学から約300名が参加した。

#### 4-4. 連携を強化するには

蘭州大学と秋田大学との連携は、事務職員の相互交流を継続させてきた実績からより強固になっている。ただ、他大学においてこのような研修制度を整備することは容易ではないかもしれない。では、どのようにして中国の大学との連携を強化していくことができるのか。

それにはやはり、地道に交流実績を積み重ねていくことが最も確実なことだろう。中国に海外事務所を開設している日本の大学の多くは、協定校の一室に事務所を設置している。まずはその事務所を活用して協定校との共同イベントを定期的で開催したり、学生や教員の交流を行ったりして、事務所の機能をより充実させていくことができるだろう。

また、海外事務所を開設していない大学での連携としては、例えば中国の大学で近年盛んに実施している外国人を対象とした短期サマープログラムへ日本から学生を参加させ、学生同士の交流を促進することなどもできる。サマープログラムに参加する学生への旅費支援などが可能になれば、より多くの学生が参加しやすくなり、そこで得られた体験を日本に持ち帰って報告してもらうなどして、学生支援にも活用できる。

これ以外にも、それぞれの大学の特性を生かした交流が必ずあるはずだ。まずはこういった交流が可能か検討し、小規模な交流からであっても、それが将来大きな実を結ぶために、継続していくことが必要ではないだろうか。

### 5. まとめ

以上、中国における日本の大学の広報活動の課題等について、合同説明会の開催を例に考察してきた。

中国人学生が合同説明会へ求めるニーズを探るために行ったアンケート調査では、入試や学費・生活費等の費用といった一般的に得られやすい大学の情報に加え、実際に留学した先輩の体験談などの「口コミ」情報も求めていることが分かった。この背景には、中国独特の状況がある。中国では、様々な場面で相手からの評価を求めることがある。銀行の窓口や駅の切符購入窓口、空港の入国審査などで「対応の評価ボタン」を目にする。評価を積極的に受け入れることで、改善につなげようとしているのだろう。また、インターネットショッピングや旅行の予約サイトでは、多くの口コミが掲載されている。広大な国土に13億人という人口を有する中国では、何をすることも選択肢が多く、良いものを選択するために口コミを参考にするといった風潮があるようだ。いずれも、「他人の評価を参考にする」という点では共通している。大学の広報活動を行う際も、こうした口コミ情報にあたる先輩の体験談も積極的にPRしていくことで、中国人学生のニーズに合った情報提供ができるだろう。

また、中国側大学との連携の重要性については、合同説明会以外にもJSPS北京センターが携わった様々なイベントにおいて実感した。具体的な成功事例として蘭州大学での事例を紹介したが、実現のきっかけとなったのは、国際協力員に蘭州大学との縁があったこと、希平会主催の合同説明会がJSPS北京センターにより運営されていたことなど、いくつもの要素が積み重なって

いる。

今後、中国において広報活動を展開していくために、JSPS 北京センターや希平会といった既存の組織・ネットワークを活用しながら、それぞれの大学が構築してきた連携関係をさらに強化していくことが期待される。

## 6. おわりに

北京への派遣が決まった 2012 年夏以降、日中の政治的緊張が高まり、日本では中国各地で起こった反日デモの様子が報道された。また、2013 年に入ると中国臨海部の大気汚染が深刻化し、とりわけ北京の大気汚染の様子が取り上げられた。そのような時期に、北京で 1 年間過ごすことに対して家族や友人、同僚から「本当に大丈夫か？」と聞かれることが多かった。もちろん不安が無かったわけではないが、それ以上に、早くまた中国に行きたい、中国で仕事をしたいという期待の方がずっと大きかった。その理由は、2007 年に蘭州で過ごした 4 ヶ月の経験がそれまでの中国に対する漠然としたイメージを大きく変えたことだ。そこで知り合った蘭州大学や甘粛省政府の関係者、友人は、ほとんど中国語が話せない私たち研修生を温かく迎えてくれ、生活面での支援や熱心な中国語の指導などにより、非常に充実した研修期間を終えることができた。そして 6 年後再度蘭州を訪問した際も、同じように温かく迎えてくれた。また、当時の研修生が帰国後、その国を訪問する機会があった関係者が研修生と連絡を取り再会を果たしたという話も聞いた。こうした経験から、一度築いた友好関係は時間を経ても、また外部からの影響も受けることなく、変わらず保たれていくものだと信じている。

中国で仕事をするものの面白さの一つは、こうした友好関係を築いていくことだと思う。大学と大学との連携においても、それを支えるのはやはり教員、学生、そして職員の交流である。

JSPS 北京センターで過ごした一年間で新たに築いたネットワークを今後も大切にしながら、大学間の連携もより深めていければと思う。

最後に、2 年間の研修に参加する機会を与えてくださった秋田大学の皆様、国内研修中にご指導くださった JSPS 国際事業部の皆様、地域交流課（当時）の皆様、報告書作成にあたりご意見をいただいた在中国日本国大使館名子一等書記官、在上海日本国総領事館和久副領事、北京センターでご指導いただいた和田センター長、加藤副センター長、現地職員の江岸さん、余彬さん、そして研修期間にご意見をいただいた日中の大学・学術研究機関関係者の皆様へ、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

## 参考文献

- [1] 「留学生 30 万人計画」 骨子 (2008 年 7 月 29 日)  
文部科学省 HP よりダウンロード (2014 年 2 月 18 日アクセス)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/ryugaku/1306885.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1306885.htm)
- [2] 独立行政法人日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」(2014 年 2 月 10 日アクセス)  
[http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/ichiran.html](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/ichiran.html)
- [3] 宮内雄史 (2013 年)『中国人留学生・中国への留学』独立行政法人科学技術振興機構 Science Portal China コラム&レポート「日中の教育最前線」13-02II (2014 年 2 月 18 日アクセス)  
[http://www.spc.jst.go.jp/experiences/education/education\\_1302.html](http://www.spc.jst.go.jp/experiences/education/education_1302.html)
- [4] 中国教育在线 2013 年出国留学趋势报告 (2014 年 2 月 10 日アクセス)  
<http://www.eol.cn/html/lx/baogao2013/page1.shtml>
- [5] 南部広孝 (2014 年)『中国にとっての留学』IDE 大学協会 IDE 現代の高等教育 No.558・2-3 月号
- [6] INSTITUTE OF INTERNATIONAL EDUCATION “Open Doors Data” (2014 年 2 月 10 日アクセス)  
<http://www.iie.org/Research-and-Publications/Open-Doors/Data/Fact-Sheets-by-Country/2013>
- [7] 中国教育部 HP (2014 年 2 月 10 日アクセス)  
<http://www.moe.gov.cn/>
- [8] 戦略的な留学生交流の推進に関する検討会『世界の成長を取り込むための外国人留学生の受入れ戦略(報告書)』(2014 年)  
戦略的な留学生交流の推進に関する検討会  
文部科学省 HP よりダウンロード (2014 年 2 月 18 日アクセス)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/ryugaku/1342726.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1342726.htm)
- [9] 独立行政法人日本学術振興会北京研究連絡センターHP (2014 年 2 月 10 日アクセス)  
<http://www.isps.org.cn/ispsbj/site/indexip.jsp>
- [10] 独立行政法人科学技術振興機構中国総合研究交流センター (2013 年 9 月)『中国主要四大学～圧倒的な人材パワーで世界トップレベルへ～(中国の科学技術力について～その 4)』独立行政法人科学技術振興機構中国総合研究交流センター
- [11] 蘭州大学 HP (2014 年 2 月 10 日アクセス)  
<http://www.lzu.edu.cn/>